



## 記憶継ぐ「旧」防空壕

東京の山の手地区が爆撃され、3千人以上が亡くなった「山の手大空襲」から25日で80年。東京都中野区にある成願寺には、戦時中に造られた長さ約40㍍の旧防空壕が今も残り、見学者が足を運んでいる。

終戦前年の1944年、僧侶や檀家の人たちが裏山を掘って造った。高さは2㍍ほどで、空襲のたびに近くの住民も避難してい

たという。

45年5月25日の深夜、464機のB29爆撃機が3千トン以上の焼夷弾を投下。皇居から西側の広い地域が焼け野原になった。成願寺も全焼した。

同寺では防空壕を「旧」防空壕と呼んでいる。「二度と戦争がなく、過去の物であってほしい」という思いからだという。

壁面がもろいため、94年に金属で補強された。見学には事前に連絡が必要だ。

(嶋田達也)